



クリニカルインディケータ―(臨床指標)とは

クリニカルインディケータ―(臨床指標)は、病院の様々な機能や診療の状況などを数値化し、時間的変化を評価・分析することにより、医療の質の向上に役立てようとするものです。

当院では、3分野13項目のクリニカルインディケータ―を定めています。



クリニカルインディケーター 臨床指標

市立千歳市民病院

平成23年8月



目次

I 病院全体のクリニカルインディケータ

I-1	主要疾患別患者数（科歴）	1
	（1）患者数順の集計	1
	（2）ICDコード順の集計	3
I-2	平均在院日数	7
I-3	死亡退院患者率	8
I-4	死亡退院患者剖検率	9
I-5	褥瘡推定発生率・有病率	10

II 主要な診療領域別のクリニカルインディケータ

II-1	疾患別死亡退院患者率	11
II-2	診療科別平均在院日数	12
II-3	分娩5分後のアプガースコアが4以下の割合	13
II-4	主要な手術件数	14
II-5	CPA患者の蘇生率	16

III 医療安全のクリニカルインディケータ

III-1	インシデント・アクシデント発生件数	17
III-2	術後創感染症発症率	18
III-3	術中、術後大量輸血率	19

I-1 主要疾患別患者数（科歴）

主要疾患別患者数は、退院された患者の疾患（医師サマリー主病名）を国際疾病分類（ICD）に分類し、統計化したものです。

当院がどのような医療を行っているのかを最も端的に表しており、経年変化を注視することにより地域医療に果たする役割を分析する指標となります。

平成22年度の患者数が10人以上の疾患を抽出し、主要疾患としています。

※医事課医療情報管理係

(1) 患者数順の集計

（単位：人）

ICDコード・主要疾患	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (4月～6月)
総数	4,634	5,040	1,422
O70 分娩における会陰裂傷<laceration>	296	211	57
J18 肺炎、病原体不詳	152	201	81
I20 狭心症	20	195	41
D12 結腸、直腸、肛門及び肛門管の良性新生物	157	164	43
J45 喘息	135	134	40
H25 老人性白内障	141	132	40
O34 既知の母体骨盤臓器の異常又はその疑いのための母体ケア	47	121	28
A09 感染症と推定される下痢及び胃腸炎	143	118	34
K80 胆石症	123	81	23
I50 心不全	38	78	18
C34 気管支及び肺の悪性新生物	89	74	26
J20 急性気管支炎	102	71	23
C16 胃の悪性新生物	88	64	19
I70 アテローム<じゅ<<粥>状>硬化(症)	10	56	20
S46 肩及び上腕の筋及び腱の損傷	43	54	12
P39 周産期に特異的なその他の感染症	48	53	17
C18 結腸の悪性新生物	60	51	23
I63 脳梗塞	54	51	16
K40 そけい<直径>ヘルニア	42	50	17
Z47 その他の整形外科的経過観察<フォローアップ>ケア(抜釘)	65	50	4
I25 慢性虚血性心疾患	14	47	20
S72 大腿骨骨折	49	47	21
K35 急性虫垂炎	37	44	14
D25 子宮平滑筋腫	29	43	9
M48 その他の脊椎障害	29	42	15
A08 ウイルス性及びその他の明示された腸管感染症	34	41	40
O04 医学的人工流産	56	41	7
O80 単胎自然分娩	32	41	14
J03 急性扁桃炎	24	40	10
K56 痙攣性イレウス及び腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	35	40	18
H66 化膿性及び詳細不明の中耳炎	25	38	11
P00 現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児及び新生児	30	38	8
S42 肩及び上腕の骨折	22	38	6
S82 下腿の骨折、足首を含む	33	38	5
O02 受胎のその他の異常生成物	50	35	14

ICDコード・主要疾患	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (4月~6月)
S52 前腕の骨折	29	34	6
C20 直腸の悪性新生物	20	33	8
E11 インスリン非依存性糖尿病<NIDDM>	61	33	3
H91 その他の難聴	14	33	8
O47 偽陣痛	38	33	10
J15 細菌性肺炎、他に分類されないもの	24	32	8
O63 遷延分娩	11	31	4
Z03 疾病及び病態の疑いに対する医学的観察及び評価	13	31	11
C56 卵巣の悪性新生物	36	28	4
C78 呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物	13	27	5
J93 気胸	18	27	4
I49 その他の不整脈	8	26	5
N39 尿路系のその他の障害	16	26	11
P05 胎児発育遅延<成長遅滞>及び胎児栄養失調(症)	21	26	6
S06 頭蓋内損傷	16	26	1
I21 急性心筋梗塞	7	25	12
J10 インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ	50	25	2
L03 蜂巣炎<蜂窩織炎>	25	25	7
C22 肝及び肝内胆管の悪性新生物	42	24	3
C50 乳房の悪性新生物	32	24	4
G56 上肢の単ニューロパチ<シ>ー	24	24	8
P07 妊娠期間短縮及び低出産体重に関連する障害、他に分類されないもの	25	24	6
S32 腰椎及び骨盤の骨折	13	24	7
T82 心臓及び血管のプロステーシス、挿入物及び移植片の合併症	14	24	8
J02 急性咽頭炎	29	23	1
J06 多部位及び部位不明の急性上気道感染症	26	22	6
K92 消化器系のその他の疾患	22	22	2
H26 その他の白内障	5	21	4
H65 非化膿性中耳炎	15	21	8
P59 その他及び詳細不明の原因による新生児黄疸	32	21	3
J69 固形物及び液状物による肺臓炎	3	20	1
M43 その他の変形性脊柱障害	4	20	0
N10 急性尿細管間質性腎炎	10	20	3
C25 膵の悪性新生物	17	19	7
C61 前立腺の悪性新生物	11	19	4
H81 前庭機能障害	16	19	4
P08 遷延妊娠及び高出産体重に関連する障害	35	19	2
J21 急性細気管支炎	10	18	1
N18 慢性腎不全	19	18	5
R56 けいれん<痙攣>、他に分類されないもの	10	18	10
I61 脳内出血	18	17	5
J35 扁桃及びアデノイドの慢性疾患	17	17	4
K63 腸のその他の疾患	23	17	8
A49 部位不明の細菌感染症	7	16	6
B26 ムンプス	2	16	1
C54 子宮体部の悪性新生物	25	16	2
I48 心房細動及び粗動	4	16	3
J36 扁桃周囲膿瘍	17	16	4
J46 喘息発作重積状態	3	16	0
K25 胃潰瘍	29	16	4
M17 膝関節症 [膝の関節症]	11	16	5
M47 脊椎症	9	16	1

ICDコード・主要疾患	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (4月~6月)
M51 その他の椎間板障害	30	16	2
E86 体液量減少(症)	11	15	4
K26 十二指腸潰瘍	3	15	2
M30 結節性多発(性)動脈炎及び関連病態	17	15	9
P21 出生時仮死	3	15	0
D27 卵巣の良性新生物	19	14	5
D69 紫斑病及びその他の出血性病態	11	14	2
O20 妊娠早期の出血	16	14	4
C67 膀胱の悪性新生物	16	13	1
J96 呼吸不全、他に分類されないもの	7	13	3
K83 胆道のその他の疾患	9	13	2
B02 帯状疱疹[帯状ヘルペス]	26	12	5
B34 部位不明のウイルス感染症	17	12	3
S86 下腿の筋及び腱の損傷	5	12	3
I44 房室ブロック及び左脚ブロック	8	11	4
I60 くも膜下出血	6	11	2
I67 その他の脳血管疾患	14	11	0
K65 腹膜炎	10	11	5
P22 新生児の呼吸窮<促>迫	4	11	1
C24 その他及び部位不明の胆道の悪性新生物	18	10	3
I65 脳実質外動脈の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	11	10	0
K55 腸の血行障害	11	10	4
O21 過度の妊娠嘔吐	7	10	6
その他	1,004	950	303

(2) ICDコード順の集計

(単位：人)

分類見出し・ICDコード・主要疾患	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (4月~6月)
総数	4,634	5,040	1,422
I 感染症及び寄生虫症	310	261	105
A08 ウイルス性及びその他の明示された腸管感染症	34	41	40
A09 感染症と推定される下痢及び胃腸炎	143	118	34
A49 部位不明の細菌感染症	7	16	6
B02 帯状疱疹[帯状ヘルペス]	26	12	5
B26 ムンプス	2	16	1
B34 部位不明のウイルス感染症	17	12	3
その他	81	46	16
II 新生物	756	715	199
C16 胃の悪性新生物	88	64	19
C18 結腸の悪性新生物	60	51	23
C20 直腸の悪性新生物	20	33	8
C22 肝及び肝内胆管の悪性新生物	42	24	3
C24 その他及び部位不明の胆道の悪性新生物	18	10	3
C25 膵の悪性新生物	17	19	7
C34 気管支及び肺の悪性新生物	89	74	26
C50 乳房の悪性新生物	32	24	4
C54 子宮体部の悪性新生物	25	16	2
C56 卵巣の悪性新生物	36	28	4
C61 前立腺の悪性新生物	11	19	4
C67 膀胱の悪性新生物	16	13	1

分類見出し・ICDコード・主要疾患	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (4月～6月)
C78 呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物	13	27	5
D12 結腸、直腸、肛門及び肛門管の良性新生物	157	164	43
D25 子宮平滑筋腫	29	43	9
D27 卵巣の良性新生物	19	14	5
その他	84	92	33
Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の傷害	23	27	6
D69 紫斑病及びその他の出血性病態	11	14	2
その他	12	13	4
Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患	97	71	15
E11 インスリン非依存性糖尿病<NIIDDM>	61	33	3
E86 体液量減少(症)	11	15	4
その他	25	23	8
Ⅴ 精神及び行動の障害	3	12	8
Ⅵ 神経系の疾患	66	59	19
G56 上肢の単ニューロパチ<シ>-	24	24	8
その他	42	35	11
Ⅶ 眼及び付属器の疾患	171	173	49
H25 老人性白内障	141	132	40
H26 その他の白内障	5	21	4
その他	25	20	5
Ⅷ 耳及び乳様突起の疾患	74	116	35
H65 非化膿性中耳炎	15	21	8
H66 化膿性及び詳細不明の中耳炎	25	38	11
H81 前庭機能障害	16	19	4
H91 その他の難聴	14	33	8
その他	4	5	4
Ⅸ 循環器系の疾患	255	629	164
I20 狭心症	20	195	41
I21 急性心筋梗塞	7	25	12
I25 慢性虚血性心疾患	14	47	20
I44 房室ブロック及び左脚ブロック	8	11	4
I48 心房細動及び粗動	4	16	3
I49 その他の不整脈	8	26	5
I50 心不全	38	78	18
I60 くも膜下出血	6	11	2
I61 脳内出血	18	17	5
I63 脳梗塞	54	51	16
I65 脳実質外動脈の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	11	10	0
I67 その他の脳血管疾患	14	11	0
I70 アテローム<じゅく<粥>状>硬化(症)	10	56	20
その他	43	75	18
X 呼吸器系の疾患	694	755	218
J02 急性咽頭炎	29	23	1
J03 急性扁桃炎	24	40	10
J06 多部位及び部位不明の急性上気道感染症	26	22	6
J10 インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ	50	25	2
J15 細菌性肺炎、他に分類されないもの	24	32	8
J18 肺炎、病原体不詳	152	201	81
J20 急性気管支炎	102	71	23
J21 急性細気管支炎	10	18	1
J35 扁桃及びアデノイドの慢性疾患	17	17	4
J36 扁桃周囲膿瘍	17	16	4
J45 喘息	135	134	40

分類見出し・ICDコード・主要疾患	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (4月～6月)
J46 喘息発作重積状態	3	16	0
J69 固形物及び液状物による肺臓炎	3	20	1
J93 気胸	18	27	4
J96 呼吸不全、他に分類されないもの	7	13	3
その他	77	80	30
X I 消化器系の疾患	442	432	124
K25 胃潰瘍	29	16	4
K26 十二指腸潰瘍	3	15	2
K35 急性虫垂炎	37	44	14
K40 そけい＜疝径＞ヘルニア	42	50	17
K55 腸の血行障害	11	10	4
K56 痙攣性イレウス及び腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	35	40	18
K63 腸のその他の疾患	23	17	8
K65 腹膜炎	10	11	5
K80 胆石症	123	81	23
K83 胆道のその他の疾患	9	13	2
K92 消化器系のその他の疾患	22	22	2
その他	98	113	25
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	69	46	21
L03 蜂巣炎＜蜂窩織炎＞	25	25	7
その他	44	21	14
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	175	187	63
M17 膝関節症〔膝の関節症〕	11	16	5
M30 結節性多発（性）動脈炎及び関連病態	17	15	9
M43 その他の変形性脊柱障害	4	20	0
M47 脊椎症	9	16	1
M48 その他の脊椎障害	29	42	15
M51 その他の椎間板障害	30	16	2
その他	75	62	31
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	122	120	39
N10 急性尿細管間質性腎炎	10	20	3
N18 慢性腎不全	19	18	5
N39 尿路系のその他の障害	16	26	11
その他	77	56	20
X V 妊娠、分娩及び産じょく	651	638	163
O02 受胎のその他の異常生成物	50	35	14
O04 医学的人工流産	56	41	7
O20 妊娠早期の出血	16	14	4
O21 過度の妊娠嘔吐	7	10	6
O34 既知の母体骨盤臓器の異常又はその疑いのための母体ケア	47	121	28
O47 偽陣痛	38	33	10
O63 遷延分娩	11	31	4
O70 分娩における会陰裂傷＜laceration＞	296	211	57
O80 単胎自然分娩	32	41	14
その他	98	101	19
X VI 周産期に発生した病態	213	227	51
P00 現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児及び新生児	30	38	8
P05 胎児発育遅延＜成長遅滞＞及び胎児栄養失調（症）	21	26	6
P07 妊娠期間短縮及び低出産体重に関連する障害、他に分類されないもの	25	24	6
P08 遷延妊娠及び高出産体重に関連する障害	35	19	2
P21 出生時仮死	3	15	0
P22 新生児の呼吸窮＜促＞迫	4	11	1
P39 周産期に特異的なその他の感染症	48	53	17

分類見出し・ICDコード・主要疾患	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (4月~6月)
P59 その他及び詳細不明の原因による新生児黄疸	32	21	3
その他	15	20	8
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	20	22	0
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見、異常検査所見で他に分類されないもの	41	65	28
R56 けいれん<痙攣>、他に分類されないもの	10	18	10
その他	31	47	18
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	374	401	100
S06 頭蓋内損傷	16	26	1
S32 腰椎及び骨盤の骨折	13	24	7
S42 肩及び上腕の骨折	22	38	6
S46 肩及び上腕の筋及び腱の損傷	43	54	12
S52 前腕の骨折	29	34	6
S72 大腿骨骨折	49	47	21
S82 下腿の骨折、足首を含む	33	38	5
S86 下腿の筋及び腱の損傷	5	12	3
T82 心臓及び血管のプロステーシス、挿入物及び移植片の合併症	14	24	8
その他	150	104	31
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	78	84	15
Z03 疾病及び病態の疑いに対する医学的観察及び評価	13	31	11
Z47 その他の整形外科的経過観察<フォローアップ>ケア（抜釘）	65	50	4
その他	0	3	0

I-2 平均在院日数

平均在院日数は、医療機関に入院した患者の1回当たりの平均的な入院日数を示すものです。病院の機能や患者の重症度などにより在院日数は変動するものであり、医療管理上のみならず病院経営の面からも重要な指標となっています。

(単位：日/1入院)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成21年度	10.4	10.3	11.7	11.7	11.5	11.4	11.2	11.0	10.0	13.3	10.5	10.2	11.0
平成22年度	11.8	11.5	10.9	10.8	10.2	10.3	10.1	10.1	9.9	10.6	11.2	10.6	10.6
平成23年度	9.7	9.6	9.5										9.6

【定義と計算式】

平均在院日数を算定するにあたり、亜急性期入院管理料等を算定している入院患者は患者数に含めない。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{当該期間内の在院患者延べ数}}{1/2 \times (\text{当該期間内の入院患者数} + \text{当該期間内の退院患者数})}$$

※医事課医療庶務係

I-3 死亡退院患者率

退院した患者数のうち、死亡退院された患者数の割合を示すものです。病院の診療科構成や入院患者の重症度などにより、その率は変わってきます。

死亡退院患者率は、経時的変化を捉えていくことで、病院の質の変化を探る手がかりとなります。

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 21 年度	死亡 退院 患者数	8	8	10	17	15	16	16	17	19	17	2	7	152
	退院 患者数	362	364	349	380	358	352	396	392	435	283	376	430	4,477
	率 (%)	2.2	2.2	2.9	4.5	4.2	4.5	4.0	4.3	4.4	6.0	0.5	1.6	3.4
平成 22 年度	死亡 退院 患者数	8	10	7	8	10	12	14	21	14	11	12	17	144
	退院 患者数	408	371	439	398	392	387	435	407	460	365	368	458	4,888
	率 (%)	2.0	2.7	1.6	2.0	2.6	3.1	3.2	5.2	3.0	3.0	3.3	3.7	2.9
平成 23 年度	死亡 退院 患者数	10	16	15										41
	退院 患者数	478	443	459										1,380
	率 (%)	2.1	3.6	3.3										3.0

【定義と計算式】

入院とみなされる救急死亡患者については除外している。

$$\text{死亡退院患者率} = \frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{退院患者数}}$$

※医事課医療情報管理係
 ※医事課医療庶務係

I-4 死亡退院患者剖検率

剖検率は、入院中に死亡された患者の中で病理解剖された患者数の割合を示します。剖検は今後の治療に活かす目的でご遺族の承諾をえて行われるもので、医療の質の向上につながります。

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 21 年度	剖検数	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	死亡 退院 患者数	8	8	10	17	15	16	16	17	19	17	2	7	152
	率 (%)	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
平成 22 年度	剖検数	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3
	死亡 退院 患者数	8	10	7	8	10	12	14	21	14	11	12	17	144
	率 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1
平成 23 年度	剖検数	0	0	0										0
	死亡 退院 患者数	10	16	15										41
	率 (%)	0.0	0.0	0.0										0.0

【定義と計算式】

入院とみなされる救急死亡患者については除外している。

$$\text{死亡退院患者率} = \frac{\text{剖検数}}{\text{死亡退院患者数}}$$

※医事課医療情報管理係

I-5 褥瘡推定発生率・有病率

褥瘡とは、寝たきりになった場合に床との接触局所が血行不全となり、いわゆる床ずれが生じることをいいます。

褥瘡の発生は、栄養不良、全身状態悪化、長時間の圧迫などに起因しており、感染症を招くことや、身体の活力を低下させるなど、結果的に在院日数の長期化にもつながるものです。

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成 22 年度	褥瘡保有 患者数	—	—	—	—	—	—	4	4	2	3	2	3
	入院時 褥瘡保有 患者数	—	—	—	—	—	—	1	2	0	1	1	1
	入院 患者数	—	—	—	—	—	—	134	169	170	118	171	169
	有病率 (%)	—	—	—	—	—	—	2.99	2.37	1.18	2.54	1.17	1.78
	推定 発生率 (%)	—	—	—	—	—	—	2.24	1.18	1.18	1.69	0.58	1.18
平成 23 年度	褥瘡保有 患者数	10	9	7									
	入院時 褥瘡保有 患者数	1	2	0									
	入院 患者数	151	144	157									
	有病率 (%)	6.62	6.25	4.46									
	推定 発生率 (%)	5.96	4.86	4.46									

【定義と計算式】

入院患者数には、調査日(毎月10日)の入退院又は入退院予定者は含めていない。
1名の患者が褥瘡を複数部位有していても、患者数は1名として数える。

入院時既に褥瘡を保有していた患者であっても、新たに入院中に褥瘡が発生した場合は、院内褥瘡発生者として取り扱い、褥瘡推定発生率を算出する。

平成22年10月から褥瘡対策委員会において褥瘡推定発生率・有病率による測定開始。

$$\text{褥瘡推定発生率} = \frac{\text{褥瘡保有患者数} - \text{入院時褥瘡保有患者数}}{\text{入院患者数}}$$

$$\text{褥瘡有病率} = \frac{\text{褥瘡保有患者数}}{\text{入院患者数}}$$

※褥瘡対策委員会

II-1 疾患別死亡退院患者率

疾患別死亡退院患者率は、退院された患者の疾患を国際疾病分類(ICD)に分類し、疾患ごとに死亡退院された割合を表します。

平成22年度に死亡退院があった疾患のうち、件数順に20疾患を指標としています。

※医事課医療情報管理係

(ICD 分類による集計)

(単位：人)

ICDコード・疾患	平成21年度			平成22年度			平成23年度 (4月～6月)		
	死亡数	患者数	率 (%)	死亡数	患者数	率 (%)	死亡数	患者数	率 (%)
C34 気管支及び肺の悪性新生物	22	89	24.7	26	74	35.1	6	26	23.1
C16 胃の悪性新生物	12	88	13.6	11	64	17.2	2	19	10.5
J18 肺炎、病原体不詳	8	152	5.3	11	201	5.5	2	81	2.5
C78 呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物	3	13	23.1	9	27	33.3	1	5	20.0
C20 直腸の悪性新生物	1	20	5.0	7	33	21.2	0	8	0.0
C25 膵の悪性新生物	4	17	23.5	7	19	36.8	3	7	42.9
C22 肝及び肝内胆管の悪性新生物	4	42	9.5	5	24	20.8	1	3	33.3
C15 食道の悪性新生物	3	10	30.0	3	6	50.0	1	3	33.3
I 46 心停止	1	2	50.0	3	4	75.0	1	1	100.0
I 61 脳内出血	5	18	27.8	3	17	17.6	2	5	40.0
I 63 脳梗塞	2	54	3.7	3	51	5.9	1	16	6.3
J15 細菌性肺炎、他に分類されないもの	3	24	12.5	3	32	9.4	2	8	25.0
S06 頭蓋内損傷	1	16	6.3	3	26	11.5	0	1	0.0
A41 その他の敗血症	0	1	0.0	2	6	33.3	0	0	0.0
C50 乳房の悪性新生物	3	32	9.4	2	24	8.3	2	4	50.0
I 21 急性心筋梗塞	2	7	28.6	2	25	8.0	1	12	8.3
I 50 心不全	4	38	10.5	2	78	2.6	3	18	16.7
J69 固形物及び液状物による肺臓炎	1	3	33.3	2	20	10.0	0	1	0.0
J84 その他の間質性肺疾患	4	8	50.0	2	8	25.0	0	5	0.0
J96 呼吸不全、他に分類されないもの	2	7	28.6	2	13	15.4	1	3	33.3

Ⅱ-2 診療科別平均在院日数

診療科別平均在院日数は、それぞれの診療科に入院した患者の1回当たりの平均的な入院日数を示すものです。

(単位：日/1入院)

	内科	循環器科	消化器科	小児科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器科	麻酔科	合計
平成21年度	20.2	13.8	11.9	4.4	17.3	20.6	20.4	6.0	4.7	6.6	7.6	14.2	0.0	11.0
平成22年度	24.8	7.9	12.0	4.3	14.7	24.1	19.4	6.7	4.7	4.9	6.5	9.1	0.0	10.6
平成23年度 (4月～6月)	22.1	6.8	14.3	3.6	13.9	21.7	14.8	7.6	4.8	5.1	9.1	11.3	0.0	9.6

【定義と計算式】

平均在院日数を算定するにあたり、亜急性期入院管理料等を算定している入院患者は患者数に含めない。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{当該期間内の在院患者延べ数}}{1/2 \times (\text{当該期間内の入院患者数} + \text{当該期間内の退院患者数})}$$

※医事課医療庶務係

Ⅱ-3 分娩5分後のアプガースコアが4以下の割合

アプガースコアは、新生児の健康度合いを判断する指標であり、生後1分後と5分後に判定し、新生児仮死の判断のために使われています。

皮膚色、心拍数、反応、筋緊張、呼吸の5項目で判定され、5項目それぞれの頭文字をとってAPGAR SCORE（アプガースコア）と呼ばれています。

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 21 年度	分娩後5分後のアプガースコアが4以下の総数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新生児総数	45	36	32	33	35	39	39	41	50	27	39	37	453
	割合 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平成 22 年度	分娩後5分後のアプガースコアが4以下の総数	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	新生児総数	40	49	38	39	36	51	35	31	36	40	27	37	459
	割合 (%)	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.7
平成 23 年度	分娩後5分後のアプガースコアが4以下の総数	0	0	0										0
	新生児総数	43	39	33										115
	割合 (%)	0.0	0.0	0.0										0.0

【定義と計算式】

皮膚色、心拍数、反応、筋緊張、呼吸の5項目を、それぞれ0、1、2点で採点し、総合計は10点となる。

7点以上は正常、4～6点は軽症仮死、3点以下は重症仮死と評価される。

$$\text{割合} = \frac{\text{分娩5分後のアプガースコアが4以下の新生児数}}{\text{当院で分娩した新生児総数}}$$

※医事課医療情報管理係

II-4 主要な手術件数

急性期病院として、多くの手術を安全・確実に遂行することは重要な使命であり、主要な手術の状況を把握していくことが、地域医療に果たしている役割を総合的に判断するための指標となります。

平成22年度の手術において、件数順に50番目までの手術を抽出し、指標としています。

※医事課医療情報管理係

(主要な手術件数)

(単位：件)

術式名称	平成21年度			平成22年度			平成23年度 (4月～6月)		
	外来	入院	合計	外来	入院	合計	外来	入院	合計
水晶体再建術 眼内レンズ挿入	0	206	206	0	232	232	0	74	74
帝王切開術（選択切開）	0	47	47	0	65	65	0	14	14
ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	0	42	42	0	50	50	0	17	17
関節鏡下肩腱板断裂手術	0	0	0	0	50	50	0	5	5
骨折観血の手術（大腿）	0	36	36	0	37	37	0	11	11
流産手術（妊娠11週まで）	0	53	53	0	35	35	0	13	13
骨折観血の手術（下腿）	0	21	21	0	32	32	0	2	2
妊娠中絶（満11週まで）	0	42	42	0	31	31	0	5	5
椎弓形成手術	0	29	29	0	30	30	0	5	5
骨内異物（挿入物）除去術（下腿）	0	27	27	0	28	28	0	3	3
腱鞘切開術（関節鏡下によるものを含む）	21	4	25	22	6	28	6	0	6
鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	0	18	18	0	27	27	0	9	9
子宮全摘術（腔式）	0	21	21	0	27	27	0	5	5
手根管開放手術	3	17	20	5	22	27	0	5	5
子宮付属器腫瘍摘出術（腹式）	0	23	23	0	25	25	0	10	10
前立腺針生検	0	19	19	0	25	25	0	9	9
骨折観血の手術（前腕）	0	21	21	0	24	24	0	4	4
腹腔鏡下胆嚢摘出術	0	46	46	0	24	24	0	9	9
帝王切開術（緊急切開）	0	36	36	0	23	23	0	6	6
子宮付属器癒着剥離術（腹式）	0	14	14	0	20	20	0	7	7
人工関節置換術（膝）	0	7	7	0	20	20	0	4	4
結腸切除術（悪性腫瘍手術）	0	27	27	0	16	16	0	9	9
口蓋扁桃手術（摘出）	0	20	20	0	15	15	0	5	5
子宮全摘術（腹式）	0	13	13	0	15	15	0	6	6
胆嚢摘出術	0	18	18	0	15	15	0	5	5
関節鏡下滑液膜摘出術（肩）	0	14	14	0	14	14	0	0	0
骨移植術（自家骨・人工骨移植併施）（軟骨移植術含）	0	4	4	0	14	14	0	0	0
脊椎固定術（後方椎体固定）	0	6	6	0	13	13	0	0	0
慢性硬膜下血腫洗浄・除去術（左）	0	9	9	0	13	13	0	0	0
骨移植術（自家骨移植）	0	12	12	0	12	12	0	2	2
骨折観血の手術（上腕）	0	10	10	0	12	12	0	5	5
骨内異物（挿入物）除去術（前腕）	0	30	30	1	11	12	1	1	2
子宮筋腫摘出（核出）術（腹式）	0	3	3	0	12	12	0	5	5
椎間板摘出術（後方摘出術）	0	17	17	0	12	12	0	0	0
アキレス腱断裂手術	0	3	3	0	11	11	0	3	3

術式名称	平成21年度			平成22年度			平成23年度 (4月~6月)		
	外来	入院	合計	外来	入院	合計	外来	入院	合計
胃全摘術（悪性腫瘍）	0	13	13	0	11	11	0	1	1
骨折観血の手術（鎖骨）	0	8	8	0	11	11	0	2	2
人工骨頭挿入術（股）	0	7	7	0	11	11	0	6	6
虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わない）	0	16	16	0	11	11	0	3	3
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）	0	12	12	0	11	11	0	2	2
クリッピング(1箇所)	0	13	13	0	10	10	0	0	0
関節形成手術（肩）	0	24	24	0	10	10	0	0	0
気管切開術	0	5	5	0	10	10	1	2	3
胃切除術（悪性腫瘍）	0	11	11	0	9	9	0	3	3
急性汎発性腹膜炎手術	0	14	14	0	9	9	0	0	0
虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴う）	0	9	9	0	9	9	0	2	2
乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除併施なし）	0	12	12	0	9	9	0	0	0
関節鏡下半月板切除術	0	14	14	0	8	8	0	2	2
骨内異物（挿入物）除去術（鎖骨）	0	6	6	2	6	8	0	0	0
鼻骨骨折徒手整復術	4	3	7	7	1	8	0	0	0
慢性硬膜下血腫洗浄・除去術(右)	0	4	4	0	8	8	0	2	2
卵管結紮術	0	3	3	0	8	8	0	2	2

【定義】

電子カルテシステムのデータベースから統計ソフト（DWH）を用い手術の術式名称と件数を抽出。

II-5 CPA患者の蘇生率

CPAは心肺停止状態（CardioPulmonary-Arrest）のことで、脳をははじめとする臓器に酸素がいなくなるため、救急隊の到着までの間や救急隊による搬送の途中においても、心臓に代わって胸骨圧迫（心臓マッサージ）により血液を流すことや、不整脈がある場合は自動除細動器（AED）により電気ショックを与えるなどの初期段階での対応が重要となってきます。

病院に到着後は、人工呼吸や薬剤などにより高度な心肺蘇生を行いますが、CPA患者の蘇生には、発見から病院に搬送するまでのこのような連携や対応が大きく影響してきます。

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 21 年度	蘇生した患者数	0	1	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	6
	CPA搬入患者数	2	1	6	3	4	3	5	3	4	4	1	1	37
	蘇生率(%)	0.0	100.0	16.7	66.7	0.0	33.3	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.2
平成 22 年度	蘇生した患者数	0	0	1	0	0	0	2	2	0	1	1	0	7
	CPA搬入患者数	4	5	4	2	1	2	5	4	3	2	5	4	41
	蘇生率(%)	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	40.0	50.0	0.0	50.0	20.0	0.0	17.1
平成 23 年度	蘇生した患者数	0	0	1										1
	CPA搬入患者数	4	3	4										11
	蘇生率(%)	0.0	0.0	25.0										9.1

【定義と計算式】

蘇生した患者数は、病院に搬入後、蘇生してそのまま入院となった例、転院した例、帰宅した例であり、死亡以外の場合の人数となっている。

$$\text{蘇生率} = \frac{\text{蘇生した患者数}}{\text{院外から搬送されたCPA患者数}}$$

※救急医療対策委員会

Ⅲ-1 インシデント・アクシデント発生件数

インシデント・アクシデントは、レベル0からレベル5に区分されています。このうちインシデントは、レベル0からレベル1のもので「ヒヤリ・ハット事例」ともいわれ、日常診療の場で、誤った医療行為が患者に実施される前に発見されたもの、あるいは、誤った医療行為が実施されたが、結果として患者に傷害などの影響を及ぼすことはなく、医療事故には至らなかったものをいいます。

アクシデントとは、レベル2からレベル5のもので、過失の有無に関わらず、医療に関わる場所で、医療の全過程において発生するすべての人身事故をいいます。不可抗力によるものや患者自身による自傷行為等も含まれます。

当院の医療事故等の公表基準では、レベル3以上のもので、レベル4以上のものはさらに過失の有無により区分し公表するものとしており、クリニカルインディケーターにおいても同様に取り扱い、これを指標として測定観測します。

(単位：件)

年度 レベル	平成21年度		平成22年度		平成23年度 (4月～6月)	
	過失のある事故	過失のない事故	過失のある事故	過失のない事故	過失のある事故	過失のない事故
レベル3	33		27		2	
レベル4	0	0	0	2	0	0
レベル5	0	2	0	1	0	0
合計	35		30		2	

【定義】

「市立千歳市民病院における医療事故等の公表基準」においては、レベル3及び過失の有無を区分したレベル4及びレベル5の事故件数などを公表するものとしている。

※安全管理委員会

インシデント・アクシデントの区分

	区分	内 容	
インシデント (ヒヤリ・ハット)	レベル0	間違ったことが発生したが患者に実施されなかった場合	
	レベル1	間違ったことを実施したが患者に変化はなかった場合	
アクシデント	レベル2	軽度	事故のため観察・検査・簡単な処置が必要になった場合
	レベル3	中等度	事故のため治療・処置が必要になった場合
	レベル4	高度	事故により高度の後遺症が残る場合
	レベル5	死亡	事故により死亡した場合

Ⅲ-2 術後創感染症発症率

手術を行った部分に細菌が入って増殖することで感染症が発症します。このため、手術前後に抗生物質を投与することにより、感染症のリスクを低減しますが、手術室や手術器具などは除菌されていたとしても、皮膚自体や空気中の細菌をなくすことは不可能であり、手術後には一定程度の感染症が発症します。

(単位：件)

年	術後創感染症発症件数	手術件数	発症率(%)
平成21年度	31	1,538	2.0
平成22年度	25	1,515	1.7
平成23年度 (4月～6月)	6	381	1.6

【定義と計算式】

術後創の感染症には、手術後における切開部の感染をいい、手術対象臓器や手術部位以外である場合の呼吸器や尿路などからの感染は含まない。

$$\text{術後創感染症発症率} = \frac{\text{術後創感染症件数}}{\text{手術件数}}$$

※院内感染対策委員会
※手術室病院報告

Ⅲ-3 術中、術後大量輸血率

手術中、手術後に大量輸血を実施した比率です。
 輸血療法は、極めて有効性が高く、近年、輸血による免疫性及び感染性の副作用・合併症は減少していることから安全性は非常に高くなっていますが、輸血による副作用・合併症を根絶することは困難です。
 このため出来るだけ手術時には出血をおさえることが課題となります。

(単位：件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 23 年	大量 輸血 患者数	0	2	1										3
	手術 件数	126	111	144										381
	大量 輸血率 (%)	0.0	1.8	0.7										0.8

【定義と計算式】

大量輸血とは、「24時間以内に循環血液量以上の輸血を行う場合」とされるが、体重60kgの成人の血液量は約4000mlとなっており、生命の危険があるのは循環血液量の1/3を失った場合とされることから、200ml1単位の輸血を6単位以上行った場合を大量輸血とする。

平成23年度から臨床検査・輸血療法委員会において測定開始。

$$\text{術中、術後大量輸血率} = \frac{\text{術中、術後に大量輸血した患者数}}{\text{手術件数}}$$

※臨床検査・輸血療法委員会
※手術室病院報告